

ご利用の手引き



本教材「実習に役立つ看護コミュニケーション：良好な関係を構築するコミュニケーション技法」は、コミュニケーションに関する授業や、実習前の患者さんとのコミュニケーションのイメージをつけ準備する時や、実習前だけではなく実習中の患者さんとのコミュニケーションについてディスカッションする場面で教材として活用できる内容となっております。

第2巻では、実際に患者さんを受け持ち、ケア提供時のコミュニケーション場面を想定しています。また、場面では成人看護学実習と設定していますが、患者さんとコミュニケーションをとり看護過程を展開する基礎看護学実習や、老年看護学実習などにおいても共通する場面になっています。

患者さんとの良好な関係構築において、コミュニケーション技術を修得することは必須です。特に患者さんの思い(解釈モデル)を聴き出すことは、良好な関係構築が重要です。しかし、多くの学生は患者さんが語った感情にどのように対応したら良いか不安を抱えています。患者さんから語られた思いに対応するための技術(NURS)を活用してくことで、良好な関係が構築できます。そこで、第2巻では、受け持ち患者さんから感情を表出された時に、良好な関係を構築するためには、どのように対応してくかを具体的に示しています。

コミュニケーションは技術です。知識を持ち合わせているだけでは、実際に使うことができません。学生が看護実践現場でどのように活用するのかをイメージし、実習でその技術を使ってみることが技術修得の鍵と言っても良いでしょう。

ここでは、本教材の構成に沿った授業での活用方法を紹介します。

監修者：篠崎恵美子

本教材の構成

- 1 イン트로ダクション (本教材の内容の概要を簡単に説明)
- 2 モデル患者紹介 (本教材に登場する患者について紹介)
- 3 信頼関係の構築過程
 - 関係性を構築するコミュニケーション方法
 - 積極的傾聴
 - 感情探索の技法
- 4 表出された感情に対応する技法
 - 関係構築技法NURS
 - 積極的傾聴と共感

授業での活用方法

看護コミュニケーションを科目として設定している場合

患者さんと良好な関係構築をするための技法の教授において、

- 3 信頼関係の構築過程
- 4 表出された感情に対応する技法

上記を視聴することで、良好な関係構築をするための技法について具体的なイメージができます。

成人看護学などで慢性期の患者さんが障害を受容していく段階での コミュニケーション技法などを教授する場合

- 1 インTRODククション
- 2 モデル患者紹介（脳出血による左片麻痺と左半側空間無視の板橋進さん）
- 3 信頼関係の構築過程

上記のモデル患者と学生のコミュニケーション場面を視聴することにより、障害を受容していく段階でのコミュニケーション技法をイメージすることが可能です。

患者さんを受け持ち、看護過程を展開する実習や領域実習前の オリエンテーション時に使用する場合

- 2 モデル患者紹介
- 3 信頼関係の構築過程

上記を視聴することにより、実習時に看護過程を展開する際に、どのように信頼関係を構築していくのか、その構築過程を具体的にイメージできます。

実習中の患者さんへの対応などをカンファレンスでディスカッションする場合

- 2 モデル患者紹介
- 3 信頼関係の構築過程

意見交換の後に、どのように対応することが良いのかを考えるための1つの例として、上記を視聴することで、信頼関係を構築するために必要な技術が具体的にイメージできます。

ここでは、患者さんの感情を表出していただき、その表出された感情にどのように対応するのかを中心にまとめてありますが、学生が遭遇するであろう困難な状況、高度なコミュニケーションが必要な状況の対応については、第3巻を活用していただくとより一層学生のイメージが具体的になります。

さまざまな授業形態を想定して、本教材の活用方法をご提示させていただきました。

また特典資料のワークシートの利用や授業計画案を参考にさせていただくことで、患者との良好な関係構築やコミュニケーション技術修得はさらに深まります。

本教材がコミュニケーション教育に携わる方、学生の皆様の一助になれば幸いです。

ワークシート

視聴前 () 内にあてはまる言葉を入れましょう。

人間の基本的感情(喜び、怒り、悲しみ、恐れ)は、(①) (②) (③) というかたちで表現されます。患者さんの感情を引き出し、対応することは良好な関係構築には必要です。

感情を引き出すには、(④) な探索と (⑤) な探索があります。患者さんから感情が表出された場合、速やかに表出された感情に (⑥) を活用して対応します。

(⑦) は、患者さんの感情に名前を付けること。ラベリングです。

(⑧) は、患者さんが表出した感情について、理解し妥当だと認め、正当化することです。

(⑨) は、患者さんの努力を賞賛したり、認めることです。

(⑩) は、患者さんをいつでも支持・援助できることを示す技法です。

視聴後 あなたは〇〇看護大学の△年生です。■■看護学実習で板橋さんを受け持つことになりました。実習3日目に板垣さんから「僕の身体はリハビリをしても一生麻痺が残るのですか？リハビリをしても無駄じゃないのかな。こんな身体では妻に迷惑をかけてしまう」と言う言葉を投げかけられました。あなたなら、なんと答えますか。板橋さんは、それまでリハビリの時間以外にもできることを一生懸命していました。具体的に書きましょう。

<hr/>

ワークシート解答

視聴前 () 内にあてはまる言葉を入れましょう。

人間の基本的感情(喜び、怒り、悲しみ、恐れ)は、(① **言語化**) (② **非言語化**) (③ **行動化**) というかたちで表現されます。患者さんの感情を引き出し、対応することは良好な関係構築には必要です。

感情を引き出すには、(④ **直接的**) な探索と(⑤ **間接的**) な探索があります。患者さんから感情が表出された場合、速やかに表出された感情に(⑥ **NURS**) を活用して対応します。

(⑦ **N: Naming 感情の命名・ラベリング**) は、患者さんの感情に名前を付けること。ラベリングです。

(⑧ **U: Understanding 理解・正当化**) は、患者さんが表出した感情について、理解し妥当だと認め、正当化することです。

(⑨ **R: Respecting 尊敬・賞賛・承認**) は、患者さんの努力を賞賛したり、認めることです。

(⑩ **S: Supporting 支持・協力**) は、患者さんをいつでも支持・援助できることを示す技法です。

視聴後 あなたは〇〇看護大学の△年生です。■■看護学実習で板橋さんを受け持つことになりました。実習3日目に板垣さんから「僕の身体はリハビリをしても一生麻痺が残るのですか？リハビリをしても無駄じゃないのかな。こんな身体では妻に迷惑をかけてしまう」と言う言葉を投げかけられました。あなたなら、なんと答えますか。板橋さんは、それまでリハビリの時間以外にもできることを一生懸命していました。具体的に書きましょう。

板橋さんは、奥さんに迷惑をかけてしまうことをご心配されているんですね。【命名】

(板橋さんは、リハビリをしても効果が思うように出ないことを不安に思っているんですね、などでも良い)

今、思うように身体が改善されていないので、板橋さん自身がそのように思うのは、よく分かります。【理解・正当化】

でも、板橋さんは、リハビリ室だけでなく、病室でも、ご自分でできることを一生懸命されているのを私たちは見えています。とても頑張っているなあと尊敬していたのですよ。【賞賛・尊敬】

私もなんとか、リハビリの計画を立ててみますから、もう少し一緒に頑張ってみませんか。【支持・協力】

「基礎看護技術」における看護コミュニケーション学習指導案

この学習指導案の一例では、コミュニケーションを科目としての設定がなく、基礎看護技術等の科目における単元において教育がなされる場合を想定して示します。したがって、教授する時期・時間によってアレンジが可能です。

単元名

良好なコミュニケーションに必要な技法～関係構築の技法～(90分×1回)

単元の指導目標

- ① 患者さんと良好な関係構築のためには、感情に対応することが必要であることを理解できる
- ② 基本的感情とその表現方法を述べることができる
- ③ 患者さんの感情を知るためには、直接的な探索と間接的な探索があることを理解できる
- ④ 患者さんから表出された感情に対応する技法NURSを説明できる
- ⑤ 患者さんから出された感情には、適切かつすみやかに対応することが重要であることを理解できる
- ⑥ 実際にロールプレイを通してNURSを用いることができる

指導計画

1. 《導入》なぜ患者さんが表出した感情に対応する技術が必要か【5分】

指導内容	① 看護実践場面で患者さんがネガティブな感情を表出する場面 ② 基本的な感情の表現方法
指導方法・留意点	多くの患者さんは自発的な感情表出や、積極的に感情を表現することはないため、積極的傾聴をしながら非言語的メッセージに注意を払うことが必要であることを認識させる。また、患者さんの感情が表出された場合、ネガティブな感情であっても、それは困った状況ではなく、しっかりその感情に対応することで、良好な関係を築くためのチャンスであることを強調する。
授業方法など	導入などで、医療現場で看護学生や看護師が、患者さんの感情が表出された際、対応に困った場面（私の病気は治らない、リハビリをしてもよくなるなど嘆く患者さんの場面）を教材とするとよい。その際に、その状況下で自分だったらどのように対応するのかを考えさせると良い。

2. 感情探索の技法と表出された感情に対応する技法1【15分】

指導内容	① 直接的な探索と間接的な探索 ② 感情に対応する技法NURS
指導方法・留意点	患者さんの感情が十分に表出されていないと感じた時に、感情を積極的に探索するもので、必ず行うものではないことを伝える。感情が出された場合、NURSを活用して速やかに対応するが、その際にNURSの順や、全てを活用するというわけではないことを伝える。
授業方法など	具体的な例を提示しながら説明するとよい。学生に自分たちの経験の中で、ネガティブな感情をその場で伝えることができなかった場面を想起させる。そして、その経験が積み重なったときに、何をきっかけに表出され、さらには、過去に言えなかった感情までが表出された場面を教材とすると良い。

3. 《まとめ1》【10分】

指導内容	学習評価
授業方法など	確認テスト等を持ちいて、患者さんと良好な関係を構築するための感情に対応する技法を考えさせる。

4. 感情探索の技法と表出された感情に対応する技法2【30分】

指導内容	感情に対応する技法NURSの実際
指導方法・留意点	DVDを視聴し、板屋進さんの事例で自分だったらどうするのかを検討させる
授業方法など	DVD第2巻

5. 演習【30分】

指導内容	簡単なシナリオでのロールプレイ
指導方法・留意点	簡単なシナリオ（ネガティブな感情を発言する患者さん）を作成し、学生同士でロールプレイを実施する。
授業方法など	ロールプレイ 説明・準備..... 10分 ロールプレイ... 5分×2回 振り返り..... 10分 DVD第3巻の事例など

6. 《まとめ2》【10分】

指導内容	学習評価
指導方法・留意点	板屋進さんを受け持った実際の場面を想起させ、自分の言葉でNURSを活用できるかなどを確認し、実習への動機付けへとつなげる。
授業方法など	確認テスト等を活用し、患者さんの感情に対応する技法NURSの理解を確認する。